国民生活産業·消費者団体連合会

生団連会報

2024年8月 VOL.60

活動報告

- •2024年度 定時総会開催
- ・総会 記念講演
- ・総会 記念パーティ
- ・林芳正内閣官房長官へ 「国民の将来不安解消に向けた提言」を手交しました
- ・ジェンダー主流化 第2回企業分科会1日目 開催

会員紹介 We Are SEIDANREN!

- ·株式会社神明
- ・三菱電機冷熱プラント株式会社
- ・株式会社でん六





生団連の使命

国民の生活・生命を守る

生団連の活動指針

- 一、国民生活の安全・安定の確保と質の向上、関連業界の健全な発展への 貢献を通じて、「国民の生活・生命を守る」という使命を追求し続けます。
- 一、世界的な視点から日本の現状を顧みて、立ちはだかる諸課題に対し、御上頼りになることなく「自ら解決に取り組む先駆け」となることを目指します。
- 一、生産・製造・流通サービスの業界と消費者団体が一体となって 大いに研究・議論を尽くし切磋琢磨して、政府・行政の政策運営に対する 発言力、提案力、そして実現力の確保に努めます。

2024年6月~2024年7月の生団連の主な動き

6月

6日 2024年度 字時総合、司令謙滨

定時総会・記念講演会・記念パーティ

27日 ジェンダー主流化委員会 第2回企業分科会(1日目)

7 月 26日 ジェンダー主流化委員会 第2回企業分科会(2日目) 7 月

27日 農大・子どもエコゼミ2024 出展

29日 埼玉生団連 現地視察会

(セカンドハーベスト・ジャパン)

30日 北海道生団連 第2回分科会

31日 新·災害委員会 第4回分科会

2024年度 定時総会開催

2024年6月6日(木) 15:00~16:50 ホテルニューオータニ「鳳凰の間」

2024年度定時総会は、会場出席とリモート出席を合わせ、約400名の会員の皆様に出席いただきました。 下記事項について諮り、すべての議案が原案の通り可決されました。

= 決議事項 =

第1号議案 理事の選任について

第2号議案 役員の改選について

第3号議案 2023年度活動報告について

第4号議案 2023年度収支決算について 第5号議案 2024年度活動計画について

第6号議案 2024年度収支予算について

会員の異動及び役員の改選について

第7号、第8号は、報告事項へ変更いたしました。

= 報告事項 💳

- 会費に関する規定の改定について
- 事務局内組織編制について



【2024年度活動計画 要旨】

▶ 最重点課題:有事における国民的危機への対応

熊谷事務局長より

- ■日本および他国の司令塔機能について調査・比較検証を進める。
- 国民保護の観点も含め、生団連が求める「あらゆる有事に対応する司令塔機能」の実現を目指し、提言を実施する。
- 新型インフルエンザ等対策政府行動計画の改正に対して、国民目線で評価する。

▲ 重点課題: 国家財政の見える化委員会



▲キリンビール株式会社 堀口代表取締役社長

- 林官房長官への提言実現をきっかけに、「3カ年複数年度予算制度 | の導入と「独立財政 機関」の設立の実現に向けて、広報活動等により話題化を図る。
- ■「見える化」の更なる推進に向け、デジタル化や予算編成プロセス見直し等について調査を 進める。
- 国民に対して勉強会などの意識喚起活動を行う。その一環で国民アンケートを実施し、定量 的なデータとして蓄積していく。

重点課題:外国人の受入れに関する委員会



▲株式会社ニッスイ 浜田代表取締役社長 執行役員 最高経営責任者(CEO)

浜田座長より

- 教育は、各セクターの連携が上手くいっている地域や海外事例を調査した上で効果的な 連携のあり方のモデルを検討し、提示していく。
 - 就労は、2027年を目途に「育成就労制度」が施行されることに伴い、生団連として取り組む べき論点を再整理し、管轄省庁の実務担当レベルとの意見交換や提案を行う。
 - 基本指針は、事務局より意向確認書の再案内や採択・賛同の進捗について確認を行う。 採択・賛同数を増やすため、ぜひご理解・ご協力を賜りたい。

▲ 重点課題:エネルギー・原発問題委員会



村田座長より

- これまでのエネルギー政策の効果検証を行う。
- 2024年は「エネルギー基本計画」改定の年であるため、資源エネルギー庁HPに設けられた 意見箱へ意見を投じた。今後、有識者との面談を通じて、国民関与の具体的手法の深堀をし、 より具体性のある提言につなげる。
- 原発ファクト集の改定に固執することなく、国民の意識喚起に繋がる新しい企画を実行する。

▶株式会社髙島屋 村田代表取締役社長

◆ 重点課題:新・災害対策委員会。



▲生団連 熊谷事務局長

熊谷事務局長より

- 外部の防災イベントへの出展を通じ、防災意識啓発など外部発信強化を実施していく。
- サプライチェーン全体での支援体制構築に向けて、昨年から引き続き、企業分科会を開催し、 災害支援マニュアル策定に向けて議論を深める。
- 能登地震発生を受け、基金設立後初めて、基金からの支援金寄付を行ったが、持続性に課題 が見えてきた。持続可能な基金運用に向けて、生団連防災月間を設けることで、有志の寄付 月間として運用をしたい。

■ 重点課題:ジェンダー主流化委員会



▲アサヒビール株式会社 塩澤取締役会長

塩澤座長より

- 先進国の中で最下位クラスであるジェンダー平等の実現に向け、ジェンダー視点主流化に 取り組んでいく。
- 引き続き「企業内のジェンダー主流化」を推進する。それには経営層が関わらなければ進ま ない、という結論。
- 第二回企業分科会(全4回)を開催し、良い取り組みは水平展開、問題点は突破口を見つけ、 企業取り組み課題と、社会課題それぞれについて方向性を見出したい。
- 秋の第一回委員会では、これまでの活動総括と、今後の活動のステップアップに向けた議論 をしたい。

→ 研究課題

- プラスチック問題・・・・・・・・ ファクト収集を実施、外部団体との連携を強化し、課題解決に向けた取り組みを促す。
- 食料安全保障・食品ロス削減・・・地域生団連と連携し、具体的な調査、活動を行う。
- 気候変動・・・・・・・・・・・・・ 気候変動に関するファクト収集を行い、研究・論点整理を行う。

● 地域生団連 ―

- 埼玉生団連 柿沼会長より 食品ロスの問題について引き続き議論を重ね、現地視察会等を開催する予定。
- 大阪生団連 山口会長より 外国人・災害について引き続き議論を重ねる。 取り組むべき重点課題を調査、議論するとともに、各企業とも協議し、テーマを決めていきたい。
- 北海道生団連 渡辺会長より 食料安全保障、食品ロス削減について、夏ごろに分科会を開催する予定。



▲会場参加の会員様からも ご意見・ご質問をいただき、 大変活発な会となりました。

総会 記念講演

2024年6月6日(木) 17:00~17:45 ホテルニューオータニ東京「鳳凰の間」

記念講演『テクノロジーで食・エンタメ・体験の力を最大化。世界を魅了する日本に。』



自由民主党 衆議院議員 小林 史明 様

1983年 4月8日生まれ	
2007年	上智大学理工学部 卒業
	株式会社NTTドコモー入社
2012年	第46回衆議院選挙 初当選
2017年	総務大臣政務官 兼 内閣府大臣政務官
2019年	自由民主党 青年局長
2021年	デジタル副大臣 兼 内閣府副大臣
	内閣府大臣補佐官
2023年	自由民主党 新しい資本主義実行本部事務局長
	同党 競争政策調査会事務局長
	同党 デジタル社会推進本部事務総長
	同党 社会保障制度調査会・デジタル社会推進
	本部 健康・医療情報システム推進合同
	PT事務局長





【講演概要】-

- 自由民主党 衆議院議員としてこれまで「テクノロジーの社会実装で、多様でフェアな社会を実現する」を政治信条に規制 改革に注力してきた。現在は新しい資本主義実行本部で議論される経済構造改革、スタートアップ政策、社会保障制度 改革を中心に、競争政策、党改革も推進している。
- 日本は「先進性」「文化的影響力」「平和」といった観点で世界から高く評価されている。日本の強みを循環させることが大事。 訪日外国人が日本でやりたいことは「食・エンタメ・地域の体験」。
- 翻って現状日本は30年に及ぶ「デフレ経済」を脱却して、賃上げと投資がけん引する成長型経済への移行期。岸田政権の「新しい資本主義」は、**賃金が継続的に上がる好循環の実現**を目指すもの。人口減少と人手不足のなかでも企業が柔軟に収益性を高め、成長し続けられる環境が必要。
- 「アナログ規制」の見直しによるテクノロジーの導入など**官民連携による賃上げ・成長投資**で国内経済を好循環型に転換し、 海外市場への付加価値の高いサービスを展開。その果実を国内へ循環させ、更なる成長と所得向上を実現する。
- 生団連は財政見える化を掲げているが、事業予算に個別番号を振り分けて管理する改革を進めている。国の決算は、次年度 予算を立て終わったのちに集計されるため予算運営の効率化・検証ができていない。この改革により1か月単位での予算の 使い方の見直しが可能になり、適切な予算配置が可能になる。

総会 記念パーティ

2024年6月6日(木) 18:00~19:30 ホテルニューオータニ東京「鶴の間」

記念パーティでは、国会議員・関係官庁の方々をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、温かいご祝辞も頂戴しました。総勢850名に上る方々のご参加により、大盛況のパーティとなりました。



小川会長挨拶 要旨 =

- ●政治資金の問題でいろいろな議論がされ国民は心配しているが、議論が矮小化されている。公開条件だけでなく、志を持ってお金を使い、その使い方を分かりやすく国民に公開するべきだ。
- ●全てお天道様は見ているという意識でお金の使い方を公明正大に国民に分かり やすく説明できるようにしてほしい。
- ●政治にお金がかかるのは分かっている。それをきちんと説明した上で資金を 募るべきだ。民主主義の基本的なシステムとして、主権者がお金を出し、政治 活動を支え、その代わりこの国を良くするためにしっかりと頑張って頂く、こういった 構造を当たり前にすべきだ。

【来賓祝辞】



▲岸田 文雄 内閣総理大臣

岸田総理 祝辞概要

- ●経済の成長と分配の好循環に向けた取り組みを続けた結果、日本の経済は5%超の賃上げ、100兆円超の設備投資の動き、株価など30年が10の明るい兆しが出てきた。
- ●明るい兆しを定着できるか、日本経済は正念場を迎えている。幅広い分野での賃上げや若い子育て世代への支援の取り組みを通じて今の動きを盛り上げていく。
- その際に大切なのは、官民連携により生活者が豊かになりそれが企業 成長につながるという好循環である。
- ●生団連の皆様には、こういった経済の流れを実感頂き、明日は必ず今日 よりも良くなる日本の実現のために協力頂きたい。



▲茂木 敏充 自由民主党幹事長



▲山口 那津男 公明党代表



▲泉 健太 立憲民主党代表



▲玉木 雄一郎 国民民主党代表



▲藤田 文武 日本維新の会幹事長



▲自見 英子 内閣府特命担当大臣

【乾杯】



◀ (左より)

札幌消費者協会 渡辺 裕子 会長 堺市消費生活協議会 山口 典子 会長 東京都地域婦人団体連盟 山下 陽枝 副会長 消費者市民社会をつくる会 阿南 久 代表理事 埼玉県地域婦人会連合会 柿沼 トミ子 会長

林芳正内閣官房長官へ 「国民の将来不安解消に向けた提言」を 手交しました

5月30日(木) 林芳正内閣官房長官を訪問し、国家財政の見える化委員会で議論を進めてきた 内容について、小川賢太郎会長より説明を行い、提言を手交しました。

林芳正内閣官房長官からは「単年度予算に縛られないよう、基金を設けている。複数年度予算にした方が無駄遣いはなくなる。近年では、MMT理論(※1)を提唱する国会議員もいるが、いくら借金をしても良いとは言えない。

それを国民に示すため、独立財政機関の設置に向け、議連(※2)で議論を進めている。」との発言がありました。

国家財政の見える化委員会では、不透明な国家財政を「見える化」することにより、持続可能な成長に資する適正かつ戦略的な財政運営の実現を目指し、制度実現に向けた今後の政府の動きを注視するとともに、政府への働きかけを続けてまいります。

- ※1 現代貨幣理論(Modern Monetary Theory): 自国通貨を発行する政府は、高インフレの懸念がない限り、財政 赤字を心配する必要がない
- ※2 独立財政推計機関を考える超党派議員の会

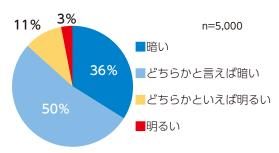


「予算制度の抜本的な構造改革に取り組み、単年度主義の弊害是正を求む」

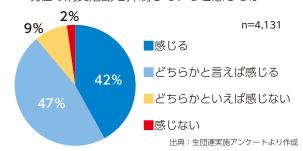
- 1. 成長と分配の好循環を実現する[3力年複数年度予算制度]の導入を求む
 - ①抜本的な構造改革を担う中期財政フレームの設定
 - ②税金の無駄遣いを抑えるシーリング(歳出上限)の設定
- 2. 政府を監視する国民の目となる「独立財政機関」の設置を求む
 - ①実態に即した将来推計
 - ②財政運営の監視
 - ③国民への客観的な情報発信

【国民アンケート結果(5,000人対象)】

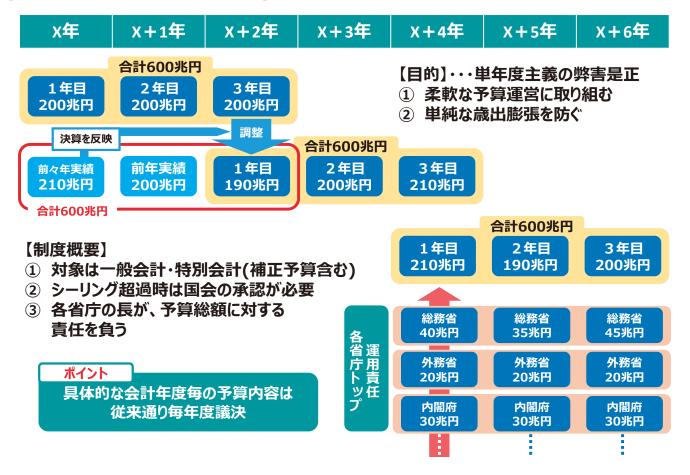
図表1 財政の先行きについて



図表 2 財政の先行き不安による金銭面での将来不安が 現在の消費活動を抑制していると感じるか



【3ヵ年複数年度予算制度 運用イメージ】-



【独立財政機関 制度形態】

予算の確保

運営費用として 複数年単位で予算を確保



政権交代などによる**廃止**を防ぐ

構造を防ぐ

人事権の確立

情報へのアクセス

情報へのアクセス権を確保



アクセス権を法律で規定



© Seidanren

ジェンダー主流化 第2回企業分科会1日目 開催

6月27日(木)ジェンダー主流化 第2回企業分科会1日目を開催しました。

企業分科会は昨年に引き続き、企業のジェンダー主流化を生団連から、より具体的にに進めていく活動となって おります。ワークショップを中心に計4回開催し、参加者には自社課題に対し実践的に取り組んでいただきます。

第2回企業分科会は18企業・23名の方に参加 いただきました。

まず、座長に就任された塩澤賢一座長(アサヒ ビール株式会社取締役会長)より、「政府方針 でも、食品製造、小売、金融という生団連加盟 企業が多い業種の男女賃金格差について指摘 があり、難しい問題は数々あるが、生団連としても ジェンダー主流化委員会を中心に、要請はしっか りと受け止めたい。参加各企業も、この分科会 も活用し、突破口を探っていただきたい」とのお 話をいただきました。



国連をはじめ世界でジェンダー主流化に携わる大崎麻子様より、国内外の関連政策の策定や推進の経緯、動向 について講義いただきました。歴代国連事務総長の思いを含めた世界の動きや、国内政策もデータエビデンスを 基に、影響力を持つ多くの実権者を巻き込んで策定されたことで、明らかに潮目が変わっている状況など、最新情 報をUPDATE頂いたことで、取り組み意義を再確認しました。



▲大崎麻子様(ジェンダー・ダイバーシティスペシャリスト)



▲只松観智子様(株式会社 Think Impacts代表取締役)



▲会場の様子

We Are SEIDANREN

株式会社神明

株式 神 明

株式会社神明

【会社概要】

●代表者:藤尾益雄

●設 立:2018年4月5日 ●主な事業:米穀事業全般

米穀及び食品の仕入・販売

米の搗精

●所 在 地: 〒103-0016

東京都中央区日本橋小網町16-15

神明日本橋ビル

●電話番号: 03-3666-2040

●U R L: https://www.akafuji.co.jp/

『私達はお米を通じて、素晴らしい日本の水田、 文化を守り、おいしさと幸せを創造して、 人々の明るい食生活に貢献します。』

1950年に設立した神明ホールディングス(本社:兵庫県神戸市)より、2018年に分社化し、米穀卸売の事業子会社となったのが、株式会社神明です。私たち神明は、長年にわたり生産者が丹精を込めて育てたお米を大切にしながら、新たな食の楽しさや喜びをお届けしてきました。近年は、農業政策の転換、少子高齢化などの社会情勢、ライフスタイルの変化により、国民一人あたりの米の消費が減り続けています。より幅広いニーズにお応えできる食べ方を提案し続け、安心・安全の徹底にも力を注ぎ、世界に誇れる「日本のお米」のクオリティーを再認識して頂くことが、日本の米食文化や持続可能な農業の未来に必要であると考えています。そのために、当社は基幹事業である米穀事業だけでなく、食に関連する多種多様なビジネスへ領域を広げています。グループ企業との連携により川上から川下までの「アグリフードバリューチェーン」を構築し、お客様への「価値創造」を追求して参ります。

事業内容

【原料調達】

当社の強みのひとつに、全国有力生産地と長年にわたって培った強固な信頼関係があります。より良いお米を追求する



姿勢を大切に、生産地とコミュニケーションを取る事に努めて参りました。主食用米・加工用米・新規需要米(米粉用・飼料用・輸出用・酒造用)など、幅広い用途への生産・販売に取り組んでいます。

【販売】

精米商品を主軸に、コメ加工品(パックごはんや米粉等)、 乾麺、砂糖、小麦粉、青果、水産物等を取り扱っております。 さらに、ブランド開発やPB商品の開発にも注力しており、多岐 にわたるお客様ニーズへ迅速に対応できるよう様々な提案を 行っております。

【製造工場】

お米本来のおいしさを味わっていただくために、徹底した品質管理体制と最新鋭設備を敷いています。当社が直営する精米工場は全国に6か所あり、いずれも国際認証規「FSSC22000」を取得しています。

【海外事業】

中国、香港、アメリカに子会社を展開し、精米や玄米や食品の輸出入、日本食レストランの運営などを行っています。「和食」が世界的な注目を集める昨今、私たちは早い時期から海外へも目を向け、日本産米を世界中に普及させ、海外でのコメ消費拡大にも積極的に取り組んで参りました。アジアへの輸出強化はもちろん、寿司やおにぎりをはじめとした日本の



▲各地から届く玄米を自社工場で精米し、埼玉/静岡/兵庫/広島/佐賀のエリアから全国へお届けしています。











食文化と共に、日本産米の輸出を加速することで、米食文化に 馴染みが薄い諸外国での日本産米の需要創出を進めています。

新たなニーズに応えたシリーズ展開

昨今の食生活の変化による日本人のコメ離れや玄米・雑穀への関心の高まりに着目し、商品開発に至りました。キーワードは「ごはん好きの方も満足」「簡単炊飯」「値頃感」「"ありそうでなかった" 白米と雑穀が配合された雑穀ごはん」。『そのまま炊けるごはん「こめからだ」シリーズ』の販売を開始しました。あらかじめ雑穀がブレンドされた水研ぎ不要の無洗米で、手軽さとおいしさを両立し、健康志向にお応えした商品です。





▲黒米がブレンドされた[6種の雑穀米](左) もっちり食感にこだわった[もちぷち黄金ごはん](右)

米の付加価値を高めるために

玄米そのものの栄養価について再注目してもらいたいと考え、コメを原料としたプラントベースフードの開発を新規事業としてスタート。そして、『玄米シュレッド』と『玄米ヨーグルト』2アイテムを2024年4月より販売開始しました。いずれも乳製品不使用、アレルギー特定原材料28品目不使用、コレステロール0で、動物性の原料は一切使用していません。『玄米シュレッド』には、もち玄米粉を使用しており、加熱するとなめらかに伸び、とろ〜りとけて、ピザやグラタン、スイーツ作りにも活躍します。『玄米ヨーグルト』は玄米をまるごとすり潰したミルクを発酵させた植物性ヨーグルト。コメの優しい甘みを生かしつるんとした食感に仕上げています。プラントベースフードで、玄米の新しいおいしさを届けます。

生産者支援の強化

日本の第一次産業においては、高齢化が進み、後継者不足による農業就労者の減少は歯止めがかからない状況です。 問題の背景にあるのは、昔ほど"米農家が儲からない"という現実です。

これらの課題を解決するために、当社は生産者支援にも力を入れ、2018年に次世代の農業を考え育てる自社農場「あかふじファーム菊川ラボ」を設立。新品種の試験栽培や栽培方法の実証を行っており、ドローンや分析ツールを使用した生産の効率化を図り、儲かる農業の仕組みづくりの実現を目指しています。

また、農業経営者には従来以上の幅広い知識と経験が求められています。大規模生産法人を運営できる人材の育成のため、2023年にのりす株式会社との共同出資により「株式会社神明アグリイノベーション」を設立しました。新規就農者を募集し、農地の確保や資金調達・資格取得、企業から独立までの総合的なサポートを行っています。「一つでも多くの大規模農業法人を誕生させる」ことを目指し、新しい形態の農業を提案し独立就農を支援しています。

また、ここでの生産物は、神明グループが全量を買い取ります。農業と向き合うだけでなく、生産・流通・販売を一貫して担う「アグリフードバリューチェーン」があるからこそ実現できる取り組みです。



三菱電機冷熱プラント株式会社



🙏 三菱電機冷熱プラント株式会社

三菱電機冷熱プラント株式会社

【会社概要】

●代 表 者:代表取締役社長 石川 憲和

●設 立:1999年10月1日

●主 な 事 業:食品工場や食品店舗の設備設計・施工

施設空調や低温設備の設計・施工

●所 在 地: 〒140-0013

東京都品川区南大井3丁目14番9

●電話番号: 03-6404-1020

L: https://www.melplant.co.jp/



「熱」を制御するエンジニアリング技術で 産業と社会に貢献

三菱電機冷熱プラントは、冷凍冷蔵並びに空調分野における エキスパート。メーカー直系のエンジニアリング会社として、 四半世紀 (創業からは半世紀以上) にわたり、産業と社会を 支える数多の設備やシステムを手がけてきました。

現代の施設の多くは、「熱」を制御する設備がなければその 機能を果たすことができません。冷やす、凍らせる、融かす、 あたためる、沸かす、動かす…。熱はさまざまに形を変え、 ときには遮断されることで、社会を支える原動力になります。 そのためのシステムを考え、形づくることに、当社は技術と 情熱を注いでいます。

普遍的ニーズと今日的課題に応える

当社は、設備やシステムの設計施工だけでなく、「ソリュー ション提案」にも力を入れています。品質の向上、快適な環 境づくり、手間やコストの削減といった普遍的なニーズに応 えるのはもちろん、省エネルギーや環境負荷の低減、ISO・ HACCP対応といった、今日的な課題も解決しうる提案です。

さらには、お客様が求める価値を生み出すために、たとえば 食品工場のラインの最適化、食品店舗の結露・カビ対策など、 設備機器の枠を超えた多様な提案をしています。

当社の現在の事業内容は、大別すると二つの領域に分かれ ています。それぞれ、概要をご紹介しましょう。

◆低温フードシステム事業

産地から食卓まで。"鮮度"をキーワードに、さらなる おいしさと安心をお届けします。

産地加工から小売にいたる「フードシステム」の設備構築を トータルにコーディネイトします。

主軸をなすのは食品プラントや低温物流施設の設備設計 で、その価値追求に不可欠な各種ノウハウを蓄積してきました。 コールドチェーンはもとより、エネルギー管理、水処理など、 施設のトータル・ソリューションを提供できることが私たちの 強みです。







調理品を急速に冷やす差圧冷却システム



当社はエンジニアリング技術で社会のさまざまな施設を支えている

この事業領域のもう一つの柱が食品店舗事業です。

スーパーマーケットやコンビニエンスストアなど、現代の 食品店舗は、チェーンストア化、もしくは大型化することで、 産地と食卓を結ぶフードシステムにおいて存在感を増して きました。鮮度と効率、安心・安全を追求する潮流の中、設備に 求められるのは、信頼性と機能性、そしてエココンシャスで あること。私たちは確かな製品力と柔軟な設計力で多くの 課題解決をアシストします。

主な業務は、社名が示す通り、低温ショーケースの製造やプレハブ冷蔵庫の施工、あるいは空調・照明・換気機器の選定など。それだけではありません。売上に直結するマーチャンダイジングの追求、売場レイアウトの設計など、運営に関わるプランニングも行います。近年特に注力しているのが、店内や天井裏の結露・カビ対策。地球温暖化が進む現在、多くの店舗がこの問題に直面しています。当社は、バックヤードを含めた空気環境を見直すことで、結露やカビを防ぐソリューションにつなげています。



◆空調·産業冷熱事業

ビル空調・産業空調から送電設備や航空機の冷却まで。 多彩な分野に対応します。

さまざまな施設の空調や冷却、さらには給湯や融雪のようなシステムも扱うのがこの事業領域です。必要とされる空気清浄度に合わせて設計する病院や半導体工場のクリーンルーム。快適さと省エネ性が重視されるビル空調。熱処理が信頼性に直結するインフラストラクチャーの設備冷却。さらにレジャー・競技施設など、多様な分野で、当社はエンジニアリング技術と工事力を発揮しています。

私たちは、どちらの事業領域においても、「持続可能な社会の 実現」と「安心・安全・快適性の提供」の両立をめざし、お客様と ともに前進します。



We Are 株式会社でん六



株式会社でん六

【会社概要】

●代表者:鈴木隆一

●設 立: 創業1924年 会社設立1953年

●主 な 事 業: 菓子の製造販売

●所 在 地:〒990-8506

山形県山形市清住町3-2-45

●電話番号: 023-644-4422

●U R L: https://www.denroku.co.jp/

株式会社でん六は、1924年に鈴木傳六が菓子製造(おこし) を創業し、その後「甘納豆」の製造販売を経て1953年に「鈴木 製菓株式会社」を設立。「でん六豆」の大ヒットにより、1962年 に社名を「株式会社でん六」に変更しました。

現在は本社工場(山形市)と蔵王の森工場(上山市)で、落花 生をはじめとする 「豆」を中心とした 「加工豆菓子」 「バタピー」 「甘納豆」「チョコレート」などを製造しています。

【経営スローガン】

豆を究め、喜びを創る

私たちは"喜働経営"を実践しています。

喜働とは、うれしい、ありがたい、お役に立ちたい、

という心で喜んで働くこと。

常に自分達を出発点として、この喜働力を発揮し、

お客様と社会と地球の未来のために

喜びの循環を創り続けてまいります。

【経営理念】

顧客第一主義を貫きます。

ライフスタイルや食をめぐる環境が多様化しているなか、 商品の安全に対する私たち製造メーカーの姿勢にもより 厳しい視線が注がれています。



お客様に喜ばれる「おいしい、安全、健康、環境にやさしい」 商品づくりによって社会に貢献していきたい。 それが、私たち「でん六」の願いです。

──でん六私たちの誓い ──

- 1. 日本一おいしい良い商品をつくります。
- 2. お客様の望む商品をつくります。
- 3. お客様に鮮度の良い商品をお届けします。
- 4. 安全衛生に万全を期します。

── 相互信頼の経営を大切にします ──

お客様をはじめ、お得意先様、お取引先、従業員、 株主、地域社会のすべてに対する信頼と、

"でん六なら"と認めていただける信頼。

その、相互信頼の上に成り立つ経営が私たちの 理想であり、基本です。

●共生と循環の「蔵王の森工場」

でん六蔵王の森工場は、「共生と循環」をテーマに自然 豊かな蔵王連峰の麓に、周囲の景観を配慮し1994年に竣工 しました。

人と環境に優しい工場から、お客様に安心して召し上がって いただける商品を日々生み出しています。



●安心・安全な製品づくり

安全・安心なお菓子をお客様にお届けするために、本社工場、 蔵王の森工場ともに食品安全マネジメントシステムの国際規格である[ISO22000][FSSC22000]を認証取得しています。

当社商品にとって、お客様へおいしいく新鮮な商品を提供するうえで命ともいえる「落花生」。各製品に合わせて、複数の産地や品種の落花生を使用していますが、いずれも国の検査基準以外に当社独自の厳しい管理基準を設け、適合した落花生のみを使用しています。

大粒落花生の主要産地である中国では、現地企業との業務 提携を実現し、品種や栽培方法、殻の剥き方までこだわった 指導をしています。

●地域貢献活動の取り組み

当社では、落花生の産地化を目指す山形県金山町および町の落花生生産者団体と「地域農業振興協定」を締結。

ブランド名「ビーナッツ」と名付けた新たな特産品を定着させるため、栽培支援や商品化などの地域農業振興に努めています。

また、蔵王の森工場の敷地にある落花生畑では、地域の 幼稚園児と一緒に栽培した落花生を収穫する「収穫祭」を 開催し、育てる喜びや食べる楽しさを一緒に体験するなど、 落花生を通じて子供たちとの交流を図っています。

その他、地元プロスポーツチームのスポンサー事業や、交響 楽団への協賛。山形の夏を彩る「花笠まつり」では山車の協賛 や従業員のパレード参加など、様々な形で地域のかたとの 交流を図っています。

●でん六SDGs宣言

大地の恵みがいっぱい詰まったおいしい豆には、みんなを元気に、笑顔にする力があります。当社は、それを多くの人へ届けたいという思いでマメに頑張ってきました。世界中が大きく変化している今、人と地球の元気と健康のために、私たちはマメの新たな可能性にチャレンジします。

~目指す社会~

誰もが食の幸せを享受し、それを活力として豊かな自然 と暮らしを次世代につなげていく社会

~でん六のあるべき姿~

持続可能な食資源である豆の可能性にチャレンジし、グローバルに新しい食文化を創造していく。

~優先課題~

- ●豆の新しい価値を創造し、世界中の人々の元気をつくる
- ●「喜働」を通じ、社会の幸せを生み出す人・組織をつくる
- ●限りある資源を有効活用し、地球環境を次世代につなぐ
- ●地域の持続可能性に貢献する



でん六の森整備作業

■おかげさまで創業100周年■

当社は2024年11月、創業100周年を迎えます。



